

海外研究発表会報告

報告者：岩田夏穂

1.	日程	2014年 3月 15日
2.	地域（概要含む）	オーストラリア（パース） Mount Lawley Senior High School
3.	担当者（人数・役割）	岩田夏穂（大月短期大学） 池田玲子（東京海洋大学） 金孝卿（シドニー国際交流基金）
4.	形態	講演とワークショップ
5.	主催	シドニー国際交流基金・西オーストラリア日本語教師協会（JLTAWA）
6.	テーマ（タイトル）	<b>Developing Students' Conversational Competence</b> - Ideas for Conversation Analyses for Teachers - 会話教育に生かす会話分析のアイデア
7.	内容の概要	講演：岩田夏穂「会話教育と会話分析」 ワークショップ：金孝卿・岩田夏穂・池田玲子  ◆講演 1. はじめに：どんな学習者が「会話上手」？  2. 会話分析とは何か  3. 教材化の例  4. 学習者とともにデザインする活動  ◆ワークショップ 5. グループ活動 教室活動に使う短い会話例を作る  6. 成果の共有  7. まとめと振り返り
8.	参加者	約 40 名（日本語教師 大学・高校他）

	(人数・背景・声など)	
9.	担当者の内省	<p>講演での会話分析についての説明では、直前に会話例をさしかえ、寸劇で見せるようにしたので、理解してもらえたように思う。やはり、いろいろ説明しなくても、此方の意図が端的に伝わる事例を挙げる大切さを実感した。</p> <p>ワークショップでは、以前実施した際に、細かい指示をしたために、参加者の意識をその指示に沿うことに向かわせてしまったことがあり、その反省から、説明を最小限にとどめたので、作業についての問い合わせはほとんどなかった。発表では、グループごとに前に出てきてもらい、実際に演じてもらったのがよかったと思う。</p> <p>ワークショップでは金さんの進行、活動のデモンストレーション等での協力の下、スムーズに実施できた。</p>
10.	次回への課題	<p>実際の会話体験で遭遇した問題を使ってもらいたいと思ったが、まったく思いつかない...と考えあぐねてしまうグループがいた。いかに、活動を自分にひきつけ、実際の体験の記憶を引き出すか、という点が課題である。</p>
	会場での様子	

